

令和 6 年度 第 2 回川崎市立社会教育委員会議日本民家園専門部会 議事録

- 1 開催日時 令和 6 年 7 月 2 1 日（日） 10:00 ～ 12:00
- 2 開催場所 日本民家園 原家 2 階大広間
- 3 出席者 委 員 高橋部会長、大野副部会長、野尻委員、菅野委員、原田委員、
長谷川委員、柴田委員、服部委員、大泉委員
事務局 阿波園長、藤川担当係長、葉山担当係長
- 4 議題
（1）令和 7 年度 川崎市立日本民家園事業計画・評価シートについて
- 5 傍聴者 0 名
- 6 会議内容
 - 1) 園長挨拶
 - 2) 会議成立の確認
 - 3) 資料の確認
 - 4) 報告事項
 - （1）民家園の近況について
〈事務局より説明〉
 - （2）工事の状況について
〈事務局より説明〉
 - （3）緑化フェアについて
〈事務局より説明〉

高橋部会長：報告事項について、今ぐらいのボリュームがあるのであれば、あらかじめ、次第か別の資料で記載して配ってほしい。ただ聞いているだけでは分かりにくい。工事のことなど重要なことも入っているので、次回から資料の方にも内容を付けてください。

藤川係長：分かりました。

5) 議事

[令和7年度 川崎市立日本民家園事業計画・評価シートについて]

〈資料を事務局より説明〉

高橋部会長：概ね令和5年度実績を基準にということだが、伝統工芸館だけ他の数値に比べて低く設定している理由はなにか。

阿波園長：令和6年度は1,500人を目標と設定しているが、令和5年度の実績で既に1,990人ということで令和6年度の目標値より多い。また伝統工芸館に関しては、4割以上が外国人の利用者。外国人利用者は伸び率が高いので、令和6年度の目標値よりも増加した数値に設定している。

高橋部会長：これは令和5年度の実績値を参考にしたのではなく、令和6年度の目標値よりも上げたということか。

阿波園長：そうです。令和5年度の実績は令和7年度の目標値よりも高いが、令和6年度の目標値を1,500人と設定していることもあり、増加も見込めるので1,800人という目標値にしている。

高橋部会長：わかりました。

[1 伝える博物館]

〈資料「(1) 文化財の保存・調査・研究の推進」「(2) 日本の伝統文化を伝えるための展示・教育普及の充実」を事務局より説明〉

大野副部長：井岡家の上げ屋についてが令和6年度の計画の中に入っていない。

阿波園長：運営基本方針は大きく3つに分かれており、耐震系の話はこの後の「安全・安心な博物館」の方で出てくる。

大野副部長：令和7年度の北村家の屋根の葺き替えは全面なのか、部分修理なのか。

阿波園長：全面です。

大野副部長：そうすると耐震の検討はまだしていないが、それはやらなくても文化庁で大丈夫なのか。

葉山係長：北村家の工事が2カ年度にまたがるのは、単年度で終わらないから。耐震補強をしなくても屋根替えをすることになったのは、屋根事情が待ったなしなのでやることにした。耐震補強と同時に葺き替えをしない限り、補助対象にはならないので、単費で行います。耐震工事が屋根の状況的に間に合わないものは、葺き替え工事を優先して行う。

大野副部長：では北村家はやや特殊な判断ということか。国の重要文化財なので本来50%ほど補助がもらえるが、その手続をするためには耐震工事を組み合わせないといけない。しかしそこまで手が回っていないので、屋根の修理を単費で行うということですね。

大野副部長：北村家の西側の裏のひさしが持ち出しているので、補強しないといけないですね。

葉山係長：今は仮設の柱が頬杖状態に立っている。補足だとわかるような形で、今後きちんとした補強の仕方をする予定。

大野副部長：（２）の１の中期目標で「一般の人が手に取りやすい解説図録の刊行」の年２冊は結構ハードルが高いことではないか。具体的にはどのようなものか。例えば民家園だよりのようなものなのか。

阿波園長：企画展に合わせて作る、お手元にある図録。なるべく一般の人でもわかるような形で作る。企画展を年２回行うのでそれに合わせて作る。

菅野委員：今回の図録の凡例を見ると、夏と冬の企画展一括のものと書いてある。

阿波園長：今回の２本の企画展はシリーズ物で山と川の暮らしとしているので、１冊にまとめている。

野尻委員：害獣駆除の獣は具体的になにか。

阿波園長：アライグマが今、一番件数が多い。民家園の中にも罠を設置していて、アライグマが捕獲されている。たまに古民家の中に入ってきてしまったりする。害獣駆除といっても捕まえるところまでで、捕獲後は生田緑地の専門業者にお渡しをするという形を取っている。

柴田委員：ここの原家の１階にも侵入したと聞いた。

阿波園長：実は原家の押し入れにアライグマが現れて、押し入れの中にあった民具に悪さをするといったこともあった。こちらと三澤家の方にも罠を設置している。

柴田委員：普段火焚きをしている棟（工藤家など奥の雑木林に近いところ）でもお土産がある。このような環境で侵入を防ぐのは難しいと思うが、罠などの対策をしているとのことだった。

阿波園長：駆除という言い方まではよろしくないのかもしれないが、捕獲をして専門業者に渡している。その先は我々の範疇ではないが、罠は仕掛けています。

柴田委員：そしてまた放つということか。

藤川係長：アライグマは外来種なので処分という形になる。たぬきは放している。

柴田委員：井岡家の工事解説パネルは作田家と同じように準備しているのか。

葉山係長：今、3枚程は貼っている。

阿波園長：つい最近だが、貼った。また工程に従って貼っていく。

柴田委員：入口のところなので、来園者も含めて、何をやっているのか興味を持つ場所なので、ぜひわかりやすい解説をしてほしい。炉端の会員より、工事のときに活動団体向けに見学会の開催はいかがでしょうかという意見も出ている。

菅野委員：中期目標の目標と年度計画の違いは何か。

阿波園長：中期目標と令和7年度の計画が被っているところも結構ある。本来、中期計画は先まで見越した目標を立てなくてはならないが、まだ具体化されていない部分もある。令和7年度は令和7年度の予算取りのために計画しているが、中期計画として令和9年度は継続するだけなのという意見もあると思う。令和9年度時点ではここまで達成していなければいけないというような意見も踏まえながら中期目標の作り込みを進めていきたい。

高橋部会長：民俗関係の具体的な内容がないことが気になる。特に令和7年度は新しい企画展2本や調査と書いてあるが、本来この時期なら企画展のタイトル・内容や調査の調査地、どこでどのように調査するか具体的に書かないと予算要求にはならないのではないかと。一番危惧するのは、目標を掲げていても、具体的なものがないと結局忙しくてできないということが今までもあった。中期計画の中に、だいたいどの博物館も3年先くらいまで展覧会の具体的な内容とタイトルくらいは示していると思う。せめて7年度は具体例を書いていただきたい。調査もどこに行き何をするのか書いてほしい。中期計画にも、7年度はここ、8年度はここ、9年度はここと書いてほしい。具体例が出ないのであれば、山の暮らしをやるとか書いてもらいたい。

ちなみに決まっているのか。

阿波園長：候補はまとめている。例えば「不思議古民具大集合」など、案は先まで予定されている。具体的に実施が可能かどうかを精査して計画に落とし込みたい。おっしゃるとおり、7年度の計画の中には具体的な内容を入れさせていたきたい。

高橋部会長：そうすれば、具体的に何をしないといけないのか明確になってくるので、予算も取りやすいと思う。

大野副部会長：先程の炉端の会の会長さんから意見があり、関係者に実情を見ていただき、上手く伝えていけるように考えていただきたいとのことだったが、運営基本方針の公開の予定はあるのか。

藤川係長：特に配布は予定していないが、公開についてはホームページでしているので、市民の方や興味ある方はそちらで見ていただければと思っている。

大野副部会長：せっかくこれだけのものを作っているので、ぜひ希望者、関係者に配っていただきたい。

藤川係長：部数が許せば希望の方には配りたい。

大野副部会長：ちなみに関係団体には回覧用に配っているのか。例えば炉端の会に見せようとか、民技会の人の紹介で回覧できるなどどうか。

阿波園長：意見募集の際にご協力いただいていたが、冊子の方はつい最近印刷したので、まだお配りできていない。

高橋部会長：何部作ったのか。

藤川係長：100部です。全員に配るには少ない。

大野副部会長：床上公開のときに置いておくなど。興味のあるお客さんもいる。宣伝にもなる。アンケートなども非常に参考になる。もったいないので、これだけやっているということをぜひ示してほしい。

高橋部会長：1つ提案だが、WEBで公開しているということを、県博協の事務局などに示して県内の博物館に周知してもらったらどうか。すごく参考になると思う。

野尻委員：井岡家のパネル設置が令和 7 年度の計画に入っているが、今年の 6 月から工事はやっているはずだ。

阿波園長：井岡家は工事の進行状況に応じて、パネルを更新したり変更したりしていく予定なので、令和 7 年度の計画にも入れている。

野尻委員：設置というより更新という意味で考えていいのか。

阿波園長：はい。

野尻委員：冒頭に園長からお話があったように、運営基本方針をもとにして令和 6 年度の計画があり、令和 7 年度の計画を立てるとのことだったが、数値について令和 5 年度の実績しか示していないと性質の異なるものを比較することとなって見にくい。先程のようになぜ低くなるのかなど数値への疑問にもつながる。

阿波園長：令和 6 年度の数値も入力しておけばよかった。

高橋部会長：それがあれば見やすい。

阿波園長：そうですね。分かりました。

原田委員：学校教育について情報提供。小学校向けの体験プログラム等を作っていると書かれている。以前 GIGA 端末がやっと 1 台入ってきたと聞いたが、その後増えているのか。

阿波園長：残念ながら民家園の方ではまだ 1 台しかない。

原田委員：GIGA 端末は小学生も中学生も 1 人 1 台持っているのもっと活用できたらと思う。教育委員会からも学校にはいろいろな要望が来て、生徒や児童に見てもらいたいものがあつたときに、みんなが自由にアクセスして見られる GIGA 端末上の「クラスルーム」を使っている。事前学習として見せる資料や動画などをぜひ GIGA 端末をもう少し活用して作ってほしい。ミートなどを使ってインタビューなども子どもたちがどんどんできる時代なので、GIGA 端末の導入を要望して、使っていただきたい。

GIGA 端末のギガ、カタカナで書いてあるが学校の中では GIGA で使うことが多いので、そちらに合わせて使っていただきたい。

学校の都合としては、SDG s に関わっているいろんなことを勉強している小中学校もいるので、そういうことも考えてほしい。

高橋部会長：1 台しか来ていないのはなにが原因なのか。

阿波園長：配置の基準があるようで、各職場に 1 台となっている。ただ、使用頻度の高さなどで要望すれば特殊な対応にはなると思う。おっしゃっている通り、活用はまだ十分にできていない。

高橋部会長：1 台だと活用しにくいのか。

阿波園長：1 台でも活用していくことは可能だが、まだ取り扱いが具体化できていないので、反省すべき点。今後 GIGA 端末を活用して学校教育全体へ活用するという方針も出ているので、我々の方でも検討する項目の一つだと思っている。

藤川係長：教育政策室が取りまとめをしてやってくれているが、体験学習の教員向けの資料は今年度中に GIGA 端末の方にも載せる予定なので、そこは進歩だと思う。

高橋部会長：令和 6 年度にも活用と書いてあるので、できる範囲で使ってほしい。

菅野委員：夜間公開は納涼民家園のときにはやらないのか、いつやるのか。

阿波園長：11 月 23.24.30 日に行う予定。夜間は映えるので、秋の紅葉に合わせて行う予定。

高橋部会長：令和 6 年度はその日程で、同じような時期に 7 年度もおこなう予定ということか。

阿波園長：はい。

菅野委員：大学の実習関係は大学との連携の方に移してしまったのか

阿波園長：そうですね。後ろの方に大学との連携のところに出てくるが、令和7年度の目標としては薄いと感じている。

[2 安全・安心な博物館]

〈資料「(1) 利用者と文化財建造物を守るための対策の推進」「(2) 野外博物館としての園内整備、植栽・植生管理の推進」を事務局より説明〉

服部委員：バリアフリーのスロープについて。常に設置してはいけないと言われている。車椅子の方が来たときに対応するということで、危ないので炉端の会では対応せず、警備にお願いしてやってもらうことになっているが、それではなかなかスムーズにいかない。ほとんど車椅子やベビーカーの方はなかに入ることができず、外から見るしかない。特に土日はそういう方が多い。常時設置というわけにはいかないのか。

阿波園長：今、「みんなでミュージアム」という NPO 法人の活動がある。体が不自由な方や目が見えない方がどのように博物館を楽しむことができるのかという意見交流をしている。そういった意見を踏まえて今後内容を反映したい。ただ、スロープは段差もあり大変。先日スペインの方が来たときも、設置しても持ち上げなどが大変だったので、その点は今後の課題として認識している。

服部委員：せっかくスロープがあってもほとんど使っていない。火焚きをやっている棟で火焚きをしている時間だけでもスロープがあるとスムーズにいけないと思う。我々が補助することも可能なので、検討してほしい。

柴田委員：車椅子の利用者が来園された場合、急に火焚き棟に来られても一人では重くてスロープを動かせないなので、対応に困ってしまう。入園した時点でわ

かっているはずなので、警備室に連絡して少なくとも炉端の会が活動している家に事前に情報が来るようにしてほしい。情報を得ておけば事前にスロープの設置ができるのではないか。

高橋部会長：今おっしゃられた事はすぐ検討できる。対応マニュアルを検討し、どのように把握して連絡するのかなど体制を整えることはすぐできるのではないか。まさに運営基本方針に書いてある小さなバリアの解消だと思うので、是非検討してやってほしい。車椅子に対するスロープは置けばいいものでもなく、介助も危ない。特に大きな電動車いすの方などは手出しができないので、事故が起きても困る。車椅子で入れる場所を案内するなどするべき。火を焚いているところにはすぐ連絡できるのか。

阿波園長：無線でできます。

高橋部会長：事前に連絡すればスムーズに対応できると思うのでそうしてほしい。

野尻委員：車椅子の方は、毎日何名かは来るのか。

阿波園長：民家園のホームページには足の不自由な方へのご案内があり、前日までに連絡があれば、山下口から入ることもできる。実際そういった情報で入ってくる件数は少ない。いきなり入ってくる場合が多い。前日までに連絡があれば、警備本部に連絡してスロープの設置が可能だが、当日急に来た場合の対応は検討していかなければならない課題。

菅野委員：2（1）2の実施目標のところに、豪雨対策や排水整備とあるが、目標計画のところに関連のものが見当たらない。総合防災システムの更新と点検はどの程度の規模を予定しているのか。

葉山係長：総合防災システムというものに含まれるのは、民家園中に設置している消防設備と監視カメラ。消防設備は年に2回法定点検がある。そこでわかったものを更新するということ。

菅野委員：点検で引っかかった場合ということか。

葉山係長：点検で引っかからないが、日常突発的なエラーが結構出るので、それは更新する。あとは点検で指摘があったことも合わせて更新を行っている。監視カメラも同様。

高橋部会長：今のだと目標というより通常に対応の範囲ではないか。これを読んだときに、令和7年度に全部のシステムの更新が予定されているのかと思った。

菅野委員：十何年たったから機器を取り替えるというようなことだと思った。

高橋部会長：書き方を工夫したほうがいいかもしれない。PCのシステムが古いと言っていたので、それを直すのかと思った。

葉山係長：シンプルに機器更新をしても繋がりにくいこともある。日常の不具合の対応もかなりのウエイトを占めているので、機器更新に書き方を改める。

高橋部会長：菅野先生からのもう一つの質問「豪雨対策と排水整備」に関してはどうか。

阿波園長：2（1）2の中期目標一番下の「園路整備工事」に豪雨対策も含めて工事をするということ。

葉山係長：園路整備工事を行うことは排水整備の強化にも直結する。また、民家の屋根替え修理と合わせて、経年で雨水がたまるようになっている古民家周りのところを、外に排出できるようにしている。北村家は屋根替え修理を行う際には家の周りの排水溝も整備して、庭の外の排水溝にきちんと流れ込むように接続する。

菅野委員：個別の建物に何か対策するという事ではないのか。

葉山係長：大規模な修理があるときに、個別の建物には対策する。それと庭から園路に排水することを古民家の園路整備のときに行い、園内から緑地の方に排水されるルートに接続するという流れになる。

高橋部会長：もし書けるのであれば、排水工事を含めてと言う形で書くとわかりやすいと思う。

柴田委員：夏の猛暑。今日も熱中症警戒アラートが出ているが、アラートが出ているときに、来園者で体調不良の方も散見される。ここに来るまでに体調不良になることもある。園内で体調不良者が出たときの対応は表記されていないが、ルールはあるのか。我々だけではなく来園書も含めた体調不良者が出た場合のルールをきちんと作っておくと良いと思う。

高橋部会長：園内で救護活動のマニュアルはあるのか。

阿波園長：応急救護マニュアルがある。マニュアルは地震、火災、応急救護、不審者、盗難、停電、テロがある。それに伴う読み合わせや訓練もしている。

高橋部会長：危機管理マニュアルに含まれているということで理解しておけばよいのか。

阿波園長：はい。

菅野委員：ボランティアや清掃スタッフを含めた訓練はどのタイミングでやるのか。休園日にやるのか。

阿波園長：ボランティアのスタートアップ研修が新しく入る人向けには年4回ある。清掃は年4回の訓練に合わせてやっている。

[3 人の中心にある博物館]

〈資料「(1) 指定管理者やボランティア及び地域等と協働した運営の推進」「(2) 多様な主体との事業連携」「(3) 広報の強化」を事務局より説明〉

菅野委員：職員研修について。置く項目として3(3)2に変更した理由は何か。今

の場所はそぐわないような気がする。方針に合わせて変更したと思うが、後退した印象がある。

阿波園長：ご指摘の通りだと思う。3（1）1の令和7年度目標のところに追加する。いれる箇所について迷っているときに消えてしまった。

高橋部会長：指定管理者との連携のところでいいのか。

阿波園長：そこに入れてしまっている。博物館法の再登録などもそこに入れてしまっているが、そもそもここでいいのかということもある。

高橋部会長：もう一度よく考えていただきたい。例えば（2）の2など。今のところだと少し違和感がある。

高橋部会長：Xのフォロワー数の増加のために具体的にどんな手段を考えているか。

阿波園長：毎日投稿するようにしている。ホームページにも乗せている。外国人の方はよく見ているように感じる。継続によって増えることを期待している。

高橋部会長：民家園では他のところをフォローしているのか。具体的に一番効果があるのは、フォローを増やすと、フォロワー数が増える。関係ないところはフォローしにくいと思うが、県博協加盟館や民家園関係を積極的にフォローすると良い。

藤川係長：昨日のフォロワー数は3,454フォロー。理由はわからないが、かなり増えている印象がある。

菅野委員：伝統芸能公演について。今年は市制100周年だが、それを踏まえて今年はどんな風に公演をする計画があるのか。歌舞伎だったか。

阿波園長：歌舞伎と人形浄瑠璃を1年おきに交代で行っている。今年は歌舞伎の予定。

高橋部会長：やはり令和6年度の計画も入れるべき。空欄になっているが、本当は入ることがあるのではないか。

阿波園長：評価項目を変えた関係でどこに当てはめるべきかということもあり、空欄になってしまっているところは、当てはまるものがなかったり、分解されてしまったりしたところ。

高橋部会長：書き方だが、再掲になってもいいので括弧書きなどで示してほしい。ダブっていても良い。ないと思われるより、書き方を工夫して入れていただきたい。多項目にわたって書いても良い。これは決定ではなく、今日の意見を踏まえて書き変えると思うが、入力間違いがところどころあるようなので、もう一度見てください。

大野副部会長：広報という点について。先日文化財の審議会に行った際に、レプリカの旧庁舎の展示の部分があり、建築的には面白い展示だった。ああいうのがあるということは、建築の博物館である民家園の情報を置いてもらい、こちらでも市役所の展示が面白いなどの情報を相互交流という形で示したら良いと思う。また、民家園カレンダーなどを明治大学や専修大学、日本女子大学など近くの大学のロビーにおいてもらうなどするとよい。関心のある人は見てくれるので、そういった面でも情報を出してほしい。アンケートでも知らなかったという人も多いので、関心を持ってもらうと良いので、大学連携も含めて考えてほしい。

高橋部会長：今の項目以外にももう一度聞いておきたいことなどある方いますか。

高橋部会長：ボランティアや民技会との交流について、民家園自体の情報の発信もいいが、炉端の会や民技会の活動に関する発信は考えていないのか。

阿波園長：イベントごとに発信をしている。緑化フェアに合わせて各団体を紹介するボードを設置予定。

高橋部会長：例えばXの発信においても、民家園についてだけではなく、炉端の会や民技会の発信も出していったりするのか。

阿波園長：Xは写真プラスアルファだが、活動中の写真を掲載することもある。

高橋部会長：民家園は非常に上手くボランティアと連携していて、色んなところで活動が評価されていると思う。歴史も長いので、そういったところをどんどん発信してほしいと思う。

大野副部会長：川崎市役所だけではなく、橘樹歴史公園でも茅葺きの建物ができあがって、公開されているので、紹介してほしい。あそこは消防体制がまだ整っていないが茅葺きの建物を置いており、不燃化、難燃化の科学質のものにしているようだ。今後も木造で茅葺きの文化遺産みたいなものを建てるようなので、民家園と交流していくべき。

高橋部会長：そういった連携もぜひ積極的をお願いします。

6) その他

今後の予定

6年11月 第3回部会 園内視察

7年 3月 第4回部会 令和6年度事業評価について

以上について事務局より連絡。

<12:00 議事終了、閉会>